

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（令和元年度分）

法人名	社会福祉法人 豊生会	代表者	佐藤 眞紀男	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で「通い」を中心として一人ひとりの様態や希望に応じて「訪問」や「泊まり」を組み合わせ、24時間365日切れ目のないサービスを提供いたします。利用者、家族が共に安心した生活を継続できるよう支援しています。また、地域での行事や催し等の参加や、ボランティアによる慰問も活発に取り入れており、増設している地域交流ホールにてカフェの開催を行い、地域の方々との交流を楽しめるような環境作りを心がけております。
事業所名	小規模多機能 ふれ愛の里	管理者	齋藤 あつ子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	5人	0人	1人	1人	0人	4人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者の生活歴の把握を行い、職員間で共有し、周知に努める。また、職員の気づきや情報をもらさず記録することに努める。	朝のミーティングや職員間での話し合いを多く設け、指示書や連絡ノート等の活用をし、職員間での情報共有に努めた。	・職員はそれぞれしっかり取り組んでいる様子が伺える。	サービス内容を確認する機会を設け、業務改善が必要なところがないかを定期的に話し合う。
B. 事業所のしつらえ・環境	運営推進会議にて、施設見学の機会を年間計画に組み入れご意見をいただく。環境衛生を中心に、事業所の環境整備を継続的に行い、清潔面や事故防止に努める。	環境整備を定期的に行い、清潔保持、事故防止が保たれている。新型コロナウイルス感染防止のため、施設見学は実行できていない。	・玄関にはカギはかけておらず、チャイムで職員が対応している。・入口が分かり難い。	環境整備は継続的に行い、清潔面や事故防止に努める。事業所の入口を分かり易くすることを、法人と検討していく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域にて広報活動を行う。地域交流ホールでのカフェを継続していく。町内会長や運営推進会議委員の方々から情報収集を行う。	去年は地域での広報活動を行なっている。カフェの開催も行うことができたが、現在はお休み中となっている。	・家族を送って行く際に、気持ちよく挨拶してもらっている。・開設時に比べ、何をやっているところだという質問がなくなったので、この頃では認知されているように感じる。	現在は新型コロナウイルス感染防止の観点からイベント参加を自粛しているが、運営推進会議委員から情報を収集し、参加できる地域の行事やイベントに参加していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の催しには積極的に参加し、外出する機会を多く作り、近隣の方々との交流を積極的に行う。	地域の催しに参加し外出の機会を設けていたが、現在は自粛している状況である。地域の銀行の協力で、利用者の作品展覧会を行った。	・新型コロナの前は、地域の行事に参加している姿を見かけていたが、今は感染防止のために、職員は何倍もご苦労されていると思う。	事業所内のみでの支援に限らず、広い視野を持ち、拡充できるよう取り組んでいく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	利用者の生活を元に、地域とのつながりを再確認し、事例検討等を運営推進会議で行う。	地域の問題点や、心配な方の事例検討は行っていない。	・行事の写真を添付しているので、施設での取り組みが分かり易い。・町内会の廃品回収に参加し始め、地域での取り組みを一緒に行おうとしている。	地域の心配な方等の事例検討については、地域支援センター等と連携を図りながら、必要な方については、事例検討し支援に繋げていく。

F. 事業所の 防災・災害対策	事業所での避難訓練に地域住民や運営推進会議委員の方々に参加を依頼し、訓練の手順の確認と見直しを行う。	水害の訓練実施し、地域住民の協力を得ている。	利用者を誘導して移動するのは大変なことだと感じた。大変良く訓練されていたと思った。	水害の避難訓練については、法人内でしっかりとした計画を立て、運営推進会議委員のご意見を伺う。
--------------------	--	------------------------	---	--

